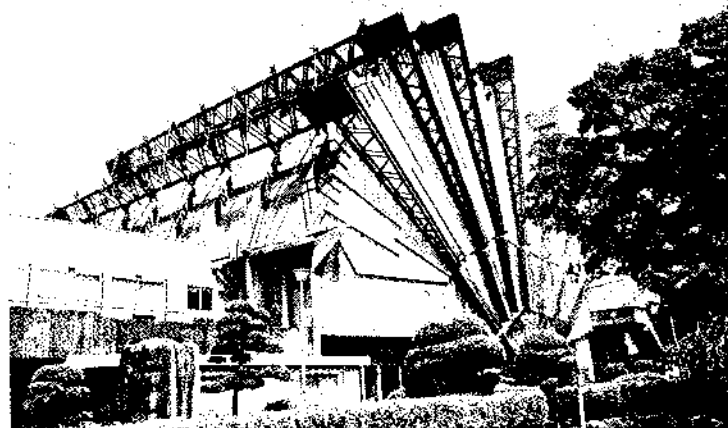


# 南九州大が貸与申し入れ

## 20年間無償 市は受ける方針

日本を代表する建築家・菊竹清訓氏が設計し、建築家組織から高く評価されながらも、維持管理費がネックとなり解体が決まっていた「都城市民会館」について、南九州大を運営する南九州学園が29日、市に20年間の無償貸与を申し入れた。同学園は「名建築を壊すのはもったいない」とし、講堂として使い、市民にも開放、維持管理費も負担する。市も申し入れを受けける方針で、存続を求めてきた市民団体は「ウルトラCの妙案だ」と喜んでいる。

市民グループも「妙案だ」喜び



都城市民会館は1966年の開館。鉄骨が放射状に突き出た奇抜なデザインで、専門家の評価も高い。部品を交換して建築物も新陳代謝すべきだという「メタボリズム」建築の代表例として、近代建築の保存に取り組む建築家の国際組織「DOCOMOMO」（本部・パリ）日本支部から、2006年度の建築10選にも選ばれている。しかし、同市が新しく市総合文化ホールを建設したことでの役割を終え、ア

取り壊しが回避され  
そうな都城市民会館

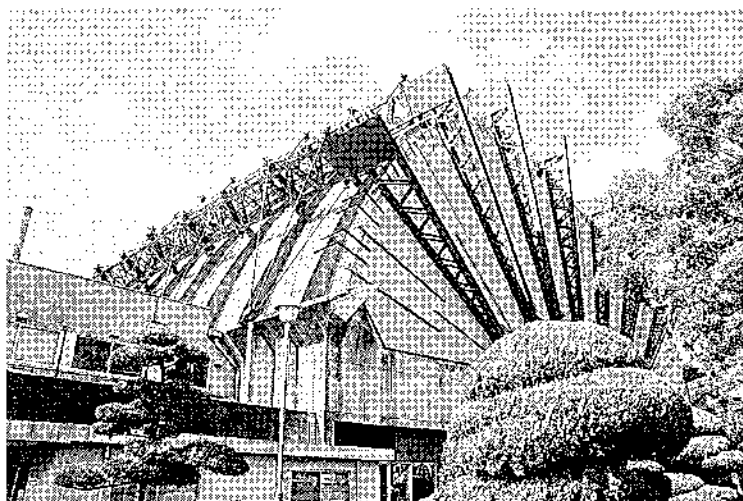
## 都城市民会館 解体免れる

スペースの使用も発覚し、1月から休館していた。老朽化などで維持管理費が年平均2000万円以上かかることもあり、市は解体を決定。9月議会で、アスベスト除去と解体を合わせた費用約2億5000万円を、この日、南九州学園の渋谷義天理事長が市役所を訪れ、申し入れた。名建築を

まる予定だった。南九州大は、撤退した大学の跡地を利用して09年度に同市に新キャンパスを開くが、市から譲り受けた施設には講堂が無く、頭を悩ませていた。そんな時、解体されそうな市民会館の話が舞い込み、文化的価値がある建築物を保存できれば大学の誇りにもなるアスベスト除去は市に依頼し、それ以外の改装費は、大学誘致で都城市が交付する20億円補助金から支出する。この日、南九州学園の渋谷義天理事長が市役所を訪れ、申し入れた。名建築を

残せる市にもメリットがあることから、長峯誠市長は大変ありがたいお話し。前平川靖二級建築士は「この向きに検討したい」と回答。市は11月6日に市の内部方針を正式に決め、12月議会に解体費を減額した補正予算案を提出する。市民会館の存続を求め誓えられは」と喜んでいる。

## 現代建築の傑作 都城市民会館



# 解体一転保存へ

## 南九州大に貸与検討

「現代建築の傑作」とされながら、解体される予定の宮崎県都城市民会館Ⅱ写真Ⅱについて、南九州学園（宮崎市）の谷義夫理事長が二十九日、都城事務所を訪れ、二十年間の貸与を申し入れた。二〇〇九年四月に南九州大学キャンパスの一部を同市に移す同学園は、入学式などの会場として同会館を活用したいとしている。長峯誠市長も「公共性の高い大学施設としての活用なら市民も理解してくれる」と述べ、保存に不可欠な工事の費用は、国の補助金を使って回市が負担することを要望している。

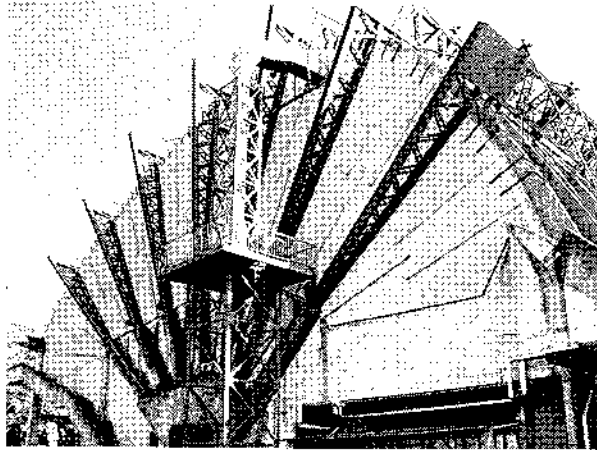
会館は、九州国立博物館などを手がけた建築家の菊竹清訓氏が設計。「メタボリズム（新陳代謝）建築の傑作」と評価されている。しかし、老朽化が進み、代わりの文化施設も完成したことなどから来年一月、解体工事に入る予定だった。

同学園は、入学式や卒業式、学生の文化部活動の練習場、大学祭やサテライト教室など市民との交流拠点として活用する予定。年間最大千四百万円と見込む運営費用は負担するが、賃貸料は免除するよう市に求めている。また、保存に不可欠なアスベスト（石綿）除去工事の費用は、国の補助金を使って回市が負担することを要望している。

一九六六年開館の市民

## 都城市民会館 解体見直しへ 南九州大が活用検討

都城市に南九州大学高まる南九州学園（澁谷義夫  
鍋キャンパスを移転させ（理事長）は二十九日、老



南九州学園が、都城市に無償貸与を要望した  
市民会館 二二九日

朽化や新ホール完成などで解体が決まっている世界的建築家・菊竹清訓氏設計の市民会館を二十一年間無償貸与するよう長峯誠市長に申し入れた。長峯市長は「前向きに検討する」としており、解体は一転見直される見通しとなった。

同学園は市民会館を、入学式や卒業式、大学祭などのイベント、音楽関係の部活動、市民講座などの会場として、都城キャンパスが開学予定の二〇〇九年四月から活用したい考え。要望書はア

スベスト除去と復旧工事は市が行う改修経費は、大学移転に伴い市が出す限度額二十億円の補

助金の対象とする一ことなど求めている。

会見した澁谷理事長は「建築物として文化的価

値があり、解体するのはもったいない。学生と市民の交流の場にしたいたい」と話した。長峯市長は「新たな財政的負担は大きく、市民の理解を得られるのでは。要望書の中身を精査して近く結論を出す」と語った。

一九六六（昭和四十二）年にオープンした市民会館は、扇形の屋根と、放射状に伸びた鉄骨のほりが特徴。市民団体や全国の建築家団体が保存を訴えていたが、市は存廃を問う市民アンケートで「解体」が83%だったことを踏まえ、今年二月に解体を決定。解体費約一億円、アスベスト除去費約一億五千万円を盛り込んだ補正予算が九月議会で可決され、来年一月に着工予定だった。保存運動をしていた同市内の建築士、平川靖三さん（66）は「喜ばしい限り。有効活用されればありがた」と話した。

# 南九州大が貸与要望書

## 解体一転、保存の見通し

09年4月に都城キャンパスを開学する南九州大は29日、都城市民会館を大学の講堂に活用したいとして、無償貸与を求める要望書を市に提出した。同会館は「日本を代表する近代建築だ」として市民グループや建築専門家らが保存を求める中、取り壊しが決まっていた。長峯誠市長は「前向きに検討する」としており、解体から一転して保存される見通しとなった。保存を求めてきた市民グループも「素晴らしいニュース」と歓迎している。

【本元六男】

大学側は無償貸与の期間として、市が所有する大学用地、建物と同じく20年間を要望。経費負担は①アスベスト除去は市が行う②改修費は、開学に伴う市の補助金(最大20億円)の枠内で支出し、補助金の増額は求めない③維持管理費は大学が負担——とした。

### 市民団体は歓迎

市民会館の解体予算2億5000万円は、9月議会で可決されている。このうちアスベスト除去費は約1億5000万円。もし解体を取りやめて無償貸与することになれば、市は12月議会に解

体予算の減額補正案を提出することになる。

市民グループの要望や議会質問にも「解体」の姿勢を崩さなかった長峯市長。大学の申し出に解体は主に財政論が理由だった。運営経費は大学が持つということだから、行政としての負担はない」と、無償貸与しても新たな財政負担が生じないことを強調した。

一方の市民グループ。11月1日には市民会館の保存を求めるシンポジウムを予定し、準備中だった。南九州の文化と建築を考える会(平川靖三さん(46))は「これ以上はない落とし所だ。全国の建築関係者も胸をなで下ろしているのではないか」。都城市民会館の再生利用を考える会(の

聖木文雄代表(70)も「びっくりした。また楽観はできないが、その通りになればうれしいことだ」と喜ぶ。

大学を運営する南九州学術(宮崎市)の渋谷義大理事長は「劇場型の講堂がほしいと考えていた。市民会館は文化的価値のある建築であり、保存が望まれる。市民との交流拠点にもしたい」と述べ、市民にも開放する考えを示した。

都城市民会館は66年の開館。九州国立博物館

などの作品で知られる建築家、菊竹清訓氏の設計で、梁が放射線状に突き出した独特のデザイン。近代建築の記録、保存に取り組む国際組織D.O.COMOMO(本部パリ)日本支部の「06年度選定建築物10選」にもなっている。

市は施設の老朽化や市民意向、維持管理の財政負担などを理由に取り壊しを決定。市議会も9月議会で解体予算を可決し、来年1月にも工事が始まる予定だった。

いったんは解体が決まり、休館中の都城市民会館

